

CA Client Automation

リリースノート

12.9



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報であり、CA の事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複写、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。

本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし、CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負いません。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者は CA および CA Inc. です。

「制限された権利」のもとでの提供：アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2014 CA. All rights reserved. 本書に記載されたすべての商標、商号、サービス・マークおよびロゴは、それぞれの各社に帰属します。

CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルセットで参照されている CA 製品は、以下のとおりです。

- CA Advantage® Data Transport® (CA Data Transport)
- CA Asset Intelligence
- CA APM (CA Asset Portfolio Management)
- CA Business Intelligence
- CA Common Services™
- CA DMM (CA Desktop Migration Manager)
- CA Embedded Entitlements Manager (CA EEM)
- CA MDM (CA Mobile Device Management)
- CA NSM (CA Network and Systems Management)
- CA Patch Manager
- CA Process Automation
- CA Service Desk Manager
- CA WorldView™

CA への連絡先

テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

目次

第 1 章: はじめに	7
システム要件.....	7
第 2 章: 新しい機能および拡張機能	9
近隣認識ソフトウェア配布.....	9
インフラストラクチャのヘルス監視の改善策.....	9
データ トランスポート サービスの設定.....	10
DSM カレンダー.....	10
DSM Web コンソール.....	11
カスタム ソフトウェア シグネチャ.....	12
プラットフォーム サポート.....	13
製品統合.....	14
OS インストール管理.....	15
モバイル デバイス管理データの統合.....	17
リモート MDB インストーラ.....	18
DSM ジョブ オプションに対する Patch Manager の統合.....	18
パフォーマンスの最適化.....	18
第 3 章: 削除および中止された機能	19
第 4 章: 既知の問題およびトラブルシューティング	21
RHEL 6.5 上のスケーラビリティ サーバで SD ライブラリが共有されると、SAMBA の再起動が失敗する.....	22
パッチに対して選択されたジョブ オプションが別のパッチに適用される.....	23
第 5 章: 言語サポート	25
国際化サポート.....	25
ローカリゼーションのサポート.....	26
第 6 章: CA Client Automation ドキュメント	27
製品メディアのドキュメント.....	27
Client Automation でインストールされたドキュメント.....	28

第 1 章: はじめに

Client Automation リリース ノートへようこそ。このドキュメントは、Client Automation リリース 12.9 に導入される機能に関する詳細を提供します。このドキュメントには、最新の完全な製品リリースに対するパッチ (CA Client Automation Feature Pack 12.8.01) としてリリースされた追加の機能も含まれます。

- [システム要件](#) (P. 7)
- [新しい機能および拡張機能](#) (P. 9)
- [削除および中止された機能](#) (P. 19)
- [既知の問題およびトラブルシューティング](#) (P. 21)
- [言語サポート](#) (P. 25)
- [CA Client Automation ドキュメント](#) (P. 27)

システム要件

詳細なシステムおよびプラットフォーム サポート情報については、「[互換性マトリックス](#)」または [Readme](#) を参照してください。

第 2 章: 新しい機能および拡張機能

Client Automation リリース 12.9 は以下の新機能、拡張機能、修正点を提供します。

注: いくつかの追加の機能は最新の完全な製品リリース (Client Automation 12.5 SP1) に対してパッチとしてリリースされました。これらの機能の詳細については、CA サポートで使用可能な Client Automation 12.5 SP1 Cumulative 1 パッチ用のリリース ノートを参照してください。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[近隣認識ソフトウェア配布 \(P. 9\)](#)

[インフラストラクチャのヘルス監視の改善策 \(P. 9\)](#)

[データ トランスポート サービスの設定 \(P. 10\)](#)

[DSM カレンダー \(P. 10\)](#)

[DSM Web コンソール \(P. 11\)](#)

[カスタム ソフトウェア シグネチャ \(P. 12\)](#)

[プラットフォーム サポート \(P. 13\)](#)

[製品統合 \(P. 14\)](#)

[OS インストール管理 \(P. 15\)](#)

[モバイル デバイス管理データの統合 \(P. 17\)](#)

[リモート MDB インストーラ \(P. 18\)](#)

[DSM ジョブ オプションに対する Patch Manager の統合 \(P. 18\)](#)

[パフォーマンスの最適化 \(P. 18\)](#)

近隣認識ソフトウェア配布

近隣認識ソフトウェア配布 (NASD) では、エージェントをピア対応ソフトウェア配布に対応する連携エージェントとして設定することができます。連携エージェントは、近隣認識エージェントがダウンロードできるソフトウェア パッケージを保持するように設定されます。この機能を使用すれば、スケーラビリティ サーバ上で同時実行数が上限に達しても、連携エージェントでその他のエージェントにサービスを提供できるので、ソフトウェア配布にかかる時間が短縮されます。

インフラストラクチャのヘルス監視の改善策

ヘルス監視が強化され、アラート レメディエーションをサポートするようになりました。特定のアラート状態の検出では、マシンでの問題を解決する修復アクションを関連付けることができます。詳細については、「実装ガイド」を参照してください。

データトランスポート サービスの設定

データ トランスポート サービスには、社内用にデータ転送の優先ルートを定義する機能が追加されています。これは **CCS WorldView 2D Map** 機能と共存しています。詳細については、「**Software Delivery 管理ガイド**」を参照してください。

DSM カレンダー

CA Client Automation に、ソフトウェア配信およびソフトウェア ジョブ実行のスケジュールを定義する自社製の **DSM カレンダー**が組み込まれました。 **DSM カレンダー**は、**CCS カレンダー**が使用されるすべての場所で使用できます。詳細については、「**Software Delivery 管理ガイド**」を参照してください。

DSM Web コンソール

このリリースで、さらに Web コンソールから以下のタスクを実行できます。

MDM 統合

ITCM Web コンソールから MDM (Mobile Device Management) 管理コンソールを起動および管理できます。

注: Web コンソールから MDM を管理するには、ドメインマネージャの設定ポリシーに統合パラメータを設定します。

ソフトウェア管理

以下についてパッケージライブラリでソフトウェアを表示して管理できます。

- ソフトウェアグループ
- プロシージャグループ
- カタロググループ
- ソフトウェアパッケージ
- プロシージャ
- ソフトウェア展開

選択内容に基づいて適切なアクション（[新規グループ]、[編集]、[削除]、[メンバの追加]、[メンバの削除]など）を実行できます。

タイムゾーン

DSM ドメインについての情報のコンソールヘッダとマネージャタイムゾーンにクライアントタイムゾーンを表示できます。

外部アセット

すべての外部アセットをさまざまなグループで表示および管理できます。

カスタム ソフトウェア シグネチャ

XML ファイルからシグネチャ定義をインポートできるようになりました。このインポート機能では、複雑なシグネチャの作成をサポートしています。この XML ファイルを使用して、1つのシグネチャに対し複数のレジストリおよびパッケージ情報を指定できます。カスタム ソフトウェア シグネチャの作成方法およびソフトウェア シグネチャ XML リファレンス情報の詳細については、「**Asset Management 管理者ガイド**」を参照してください。

プラットフォーム サポート

このリリースでは、以下のプラットフォームがサポートされます。

エージェント

- Windows 8.1
- Windows Server 2012 R2
- Red Hat Enterprise Linux 6.5
- Red Hat Enterprise Linux 5.10
- Red Hat Enterprise Linux 5.11
- Red Hat Enterprise Linux 7
- Oracle Enterprise Linux 7
- SuSE Linux Enterprise Desktop 11 SP3
- SuSE Linux Enterprise Server 11 SP3
- Open SusE 13.1
- OSX10.9.2 OSX 10.9.4、OSX 10.9.5、および OSX 10.10

スケーラビリティ サーバ

- Windows 8.1
- Windows Server 2012 R2
- Red Hat Enterprise Linux 6.5
- SuSE Linux Enterprise Server 11 SP3

マネージャ

- Windows Server 2012 R2

MDB

- Microsoft SQL Server 2014
- Oracle 12c
- AIX 上の Oracle

注: ネイティブ AIX MDB Installer は使用できません。Windows MDB インストーラを使用して MDB をリモートでインストールする必要があります。

製品統合

このリリースでは、以下の製品の統合サポートを提供します。

- CA Process Automation 4.2 SP2
- CA Business Intelligence 4.1 SP3

OS インストール管理

このリリースでは、OS インストール管理について以下の点が強化されています。

プラットフォーム サポート

このリリースでは、以下のプラットフォームがサポートされています。

- Windows 8.1
- Windows Server 2012 R2
- OpenSuSE 13.1
- RHEL 6.5
- SUSE Linux Enterprise Server 11 SP3
- Microsoft Hyper-V Server 2012 R2
- VMware ESXi 5.5
- XEN Server 6.2

サポートされなくなったプラットフォームおよび製品統合のリストについては、「ITCM 互換性マトリックス」を参照してください。

GETIMAGE

このリリースは、WinPE 4.0 の 64 ビットのバージョンをサポートするために、以下の新しい GETIMAGE タイプを提供します。

GETIMAGEX64

Windows 7x64、8x64、8.1x64、Windows Server 2008x64、2008 R2、2012、および 2012 R2 の OS イメージをキャプチャします。

ImageX

このリリースは、WinPE 4.0 の 64 ビットのバージョンをサポートするために、以下の新しい ImageX タイプを提供します。

IMAGEX64-WIN7

Windows 7x64 および Windows 7 SP1x64 の OS イメージをサポートします。

IMAGEX64-WIN8

Windows 8x64 および Windows 8.1x64 の OS イメージをサポートします。

IMAGEX64-W2008/R2

Windows Server 2008x64 および 2008 R2 をサポートします。

IMAGEX64 - W2012/R2

Windows Server 2012、2012R2 をサポートします。

Linux、ESXi、および Citrix イメージの展開およびステージング

このリリースでは、Windows 2012 および Windows 2012 R2 上で実行される OSIM リモートブートサーバへの Linux、ESXi、および Citrix OS のイメージの展開およびステージングがサポートされています。

注: Windows リモートブートサーバの場合、Linux、ESXi、および Citrix のイメージの展開およびステージングは、Windows Server 2008、2012、2012 R2 などのサーバクラスのオペレーティングシステムでのみサポートされています。

Windows Server に対する SAN 展開サポート

Windows Server 2012 および Windows Server 2012R2 に対する SAN 展開サポート。

Windows のキーレス インストール(プロダクト キーまたは ID はオプション)

OSIM では、プロダクト キーを指定せずに Windows を展開できます。キーレス インストールは、以下のプラットフォームに対してサポートされています。

- Windows 8
- Windows 8.1
- Windows 2012
- Windows 2012 R2

Windows でのボリューム ライセンス (VL) イメージのインストール

ボリューム ライセンス イメージを使用する Windows OS エディションは OSIM で展開できます。ボリューム ライセンス (VL) イメージのインストールは、以下のプラットフォームでサポートされています。

- Windows 8 Professional Edition
- Windows 8.1 Professional Edition

無署名のドライバのサポート

Windows PE ブート イメージおよび ImageX Windows OS イメージへの無署名のドライバをサポートします。以下のプラットフォームがサポートされています。

- Windows 7
- Windows 7 SP1
- Windows 2008 x64
- Windows 2008 R2
- Windows 8

- Windows 8.1
- Windows 2012
- Windows 2012 R2

LinuxPE ブート イメージでの Kubuntu OS 展開のサポート

Kubuntu OS の展開が LinuxPE Boot イメージでサポートされるようになりました。前のリリースでは、この展開は DOSX ブート イメージでサポートされていました。

Linux ベースのブート イメージの更新

Shellshock 脆弱性 (Bash コード インジェクション脆弱性) を軽減するために、Linux ベースのブート イメージにパッチが適用されました。更新された Linux ベースのブート イメージ (カスタマイズされた CentOS 6.3 x64 ブート ファイル) は製品 DVD とは別の DVD で提供されます。

ブート イメージおよび OS イメージの名前長

ブート イメージおよび OS イメージの命名に使用できる文字数が 32 文字に増やされました。

モバイル デバイス管理データの統合

CA Client Automation はシームレスに CA Mobile Device Management (CA MDM) を統合し、そのデータベースに格納されたアセットに関する情報を抽出します。MDM との統合により、IT 管理者にとって、あらゆるエンドポイント、およびエンタープライズ システムとサービスへのアクセスに使用されるアプリケーションの包括的な表示と収集が強化されます。詳細については、「Asset Management 管理者ガイド」を参照してください。

リモート MDB インストーラ

マスタ インストーラは機能が強化され、同じコンピュータ上に 1 つの手順で CA Client Automation と MDB を一緒にインストールできるようになりました。これにより、インストールプロセスが簡単になり時間が短縮されます。詳細については、「実装ガイド」を参照してください。

注: CCS と DSM マネージャをリモート MDB にインストールする場合は、前のリリースの場合と同様にリモート コンピュータに MDB と CCS があらかじめインストールされている必要があります。

DSM ジョブ オプションに対する Patch Manager の統合

CA Patch Manager は、[テスト]、[展開]、[ソフトウェア ポリシー] の展開 オプション ページで、追加のジョブ オプションをサポートします。ソフトウェア ポリシーについては、このような追加のジョブ オプションをパッチごとに設定できます。

パフォーマンスの最適化

このリリースでは、パフォーマンスを向上させるために以下の機能強化が実施されました。

- DSM エクスプローラの起動および以下のノードへの移動のために応答速度を高めました。
 - 検出されたソフトウェア
 - クエリ
 - エンジン
- スケーラビリティ サーバは、ディスク容量を抑えるために、シグネチャ /intellisig ファイルの最新の 3 つバージョンのみを保持するようになりました。
- Microsoft SQL Server 上での DSM レポートの実行速度を上げるために SQL トランザクション分離レベルを変更できるオプションを追加しました。
- GUI セッションのアクティブな更新を設定するためにアプリケーションアイドル通知オプションを DSM エクスプローラに追加しました。

第 3 章：削除および中止された機能

この章では、以下の削除および廃止された機能について説明します。

1. System Performance LiteAgent
2. CCS イベント管理、カレンダー、ディスクバリ（共通および継続）、World View、および高可用性サービス オプションといった機能は、12.8 以降サポートされている新しいオペレーティング システムおよびデータベースのプラットフォーム上ではサポートされません。

CA Client Automation 12.9 および将来のリリースで、CCS 機能の主要部分の置き換えを予定にしています。

置換計画が完了するまでは、CA Client Automation Enterprise およびドメイン マネージャは、CCS によって提供される以外のさまざまなプラットフォームでもサポートされる可能性があります（Windows Server 2012 R2 など）。そのようなシナリオでは、CA Client Automation が CCS によって提供される機能を備えることなく引き続き使用される場合があります。あるいは、CCS がそのサポートされているプラットフォームに引き続きインストールされることも考えられます。

CCS によってサポートされるプラットフォームの完全なリストについては、CA サポート サイトにある「リリースの検証情報 <https://support.ca.com/iri/portal/anonymous/phpsupcontent?contentID=6dc54d3d-7d1f-4450-85ff-7b2c6d747cf0&productID=2869>」を参照してください。

3. グリーン IT 詳細インベントリおよびレメディエーション ジョブ

以下の項目がグリーン IT から削除されます。

- 計算された電源状態時間のインベントリ。
- スリープ状態に関する追加のグリーン IT インベントリ。
- システムのウェイクアップをトリガできるデバイスの詳細。
- PC 電源管理設定を適用するグリーン IT レメディエーション ジョブ。

注：有効な CA ecoDesktop ライセンスを保有している場合は、機能が失われないようにするために、このパッチを展開する前に CA Support にお問い合わせください。

サポートされなくなったプラットフォームおよび製品統合のリストについては、CA Client Automation の「[互換性マトリックス](#)」を参照してください。

第 4 章: 既知の問題およびトラブルシューティング

このセクションでは、既知の問題とトラブルシューティング情報を示します。テスト修正の詳細なリストについては、[Readme](#) を参照してください。

追加のパッチについては、<ftp.ca.com> 上の以下のパスにある共有スペース上の [Readme](#) を参照してください。
`FTP directory/ITCM_r12_9_Beta/Additional_Patches/`

RHEL 6.5 上のスケーラビリティ サーバで SD ライブラリが共有されると、SAMBA の再起動が失敗する

症状:

RHEL 6.5 またはそれ以降で実行されているスケーラビリティ サーバ上で SDLIBRARY を共有すると、SDLIBRARY 共有の追加後に、Samba の再起動（停止してから起動）が失敗します。

解決方法:

この問題を解決する方法は複数あります。

1. SDLIBRARY の SAMBA 共有を追加または更新した後で samba を動作させるには、SELINUX が "許容可能" モードで実行されるように設定します。SELINUX が "適用" モードであると、SDLIBRARY の SAMBA 共有を追加または更新した後で、samba は動作しません。
2. "適用" モードで SELINUX が実行されている間に、sd_sscmd を使用して SAMBA 共有の追加または更新をサポートするには、以下のコマンドを以下のシーケンスで実行します。
 - a. `#cp /etc/samba/smb.conf /etc/samba/smb.conf_backup`
 - b. `#rm -f /etc/samba/smb.conf`
 - c. `#mv /etc/samba/smb.conf_backup /etc/samba/smb.conf`
3. それぞれの samba フォルダについて設定ファイルのセキュリティ コンテキストを変更します。通常、samba フォルダのパスは /etc/samba です。セキュリティ コンテキストを変更する場合は、以下のコマンドを使用します。
`#chcon -u system_u -r object_r -t samba_etc_t /etc/samba/smb.conf`

パッチに対して選択されたジョブ オプションが別のパッチに適用される

症状:

パッチ マネージャでポリシーを作成している間に、ユーザが [展開オプション] ページでデフォルトのジョブ オプションを上書きした場合、パッチに対して選択されたジョブ オプションが別のパッチに適用されることがあります。

解決方法:

ポリシーの作成では、ジョブ オプションを上書きするのではなく、デフォルトのジョブ オプションを使用します。次に、ポリシーを編集して、パッチごとに異なるジョブ オプションを指定します。

第 5 章：言語サポート

国際化サポート

「国際化」製品とは、所定のローカル言語版の必須オペレーティングシステムおよびサードパーティ製品上で正常に動作する英語版製品です。また、国際化製品は、日付、時刻、通貨、数値に関してローカル言語の書式をサポートします。

英語版は、Windows および Linux /UNIX の以下の各言語版オペレーティング環境で動作が保証されています。

- フランス語
- ドイツ語
- 日本語

エージェントコンポーネントの場合：

- 中国語（簡体字）
- 中国語（繁体字）
- イタリア語
- 韓国語
- スペイン語
- ポルトガル語（ブラジル）

ローカリゼーションのサポート

ローカライズされた製品とは、製品ユーザ インターフェース、オンライン ヘルプ、およびその他のドキュメントのローカル言語サポートを含む、国際化製品です。また、日付、時刻、通貨、数値の書式におけるローカル言語のデフォルト設定もサポートします。

このリリースの **Client Automation** は以下のローカライズされた言語をサポートします。

- フランス語
- ドイツ語
- 日本語

エージェント コンポーネントの場合:

- 中国語（簡体字）
- 中国語（繁体字）
- イタリア語
- 韓国語
- スペイン語
- ポルトガル語（ブラジル）

このリリースでは、**CA Business Intelligence (BI)** のローカリゼーションがサポートされています。

第 6 章: CA Client Automation ドキュメント

Client Automation ドキュメントは、以下の領域を主に取り扱っています。

- 製品ライフサイクル全体でコンテンツへのアクセスを与えるエンド ツー エンドのマニュアル選択メニュー (Bookshelf)。
- 役割ベースのシナリオ。重要なビジネス プロセスを完了するための方法が詳しく記載されています。これらのシナリオは、従来のガイド内に記載されており、また、<http://ca.com/support> でスタンダアロンのナレッジ ベース記事として参照できます。
- 操作性とアクセシビリティを向上させる簡潔な製品コンテンツ。
- 最新の Client Automation 操作手順、ヒント、プロセス、CA Client Automation Cookbook の手順 ([Flipboard](#) で利用可能)

以下の場所にある製品ドキュメントにアクセスできます。

- 製品の [ヘルプ] リンクをクリックします。
- インストール メディアの Docs ディレクトリにアクセスします。
- <http://www.ca.com/jp/support> のテクニカル サポートにアクセスします。

製品メディアのドキュメント

Client Automation 用の次のドキュメントが DVD にあります。これを Client Automation インストールの前に読む必要があります。

- **CA マニュアル選択メニュー**

マニュアルの形式にかかわらず、ドキュメントセットに含まれるすべてのマニュアルに 1 か所からアクセスできます。これにより、ユーザは情報を簡単に見つけたり、あらゆるマニュアルを検索したり、ドキュメントを参照し、印刷したりできます。

CA マニュアル選択メニューは *DVD_Root¥DOC¥* にあります。

- **Readme**

製品インストールの要件と既知の問題が記載されています。Readme は *DVD_Root¥* にあります。

Client Automation でインストールされたドキュメント

次のタイプのドキュメントは、**Client Automation** とともに自動的にインストールされ、**Client Automation** の実行中にアクセスできます。

- **オンラインヘルプ**

コンテキストに応じたヘルプを提供し、[ヘルプ] メニュー、**F1**、ヘルプ ボタンからアクセスできます。

- **チュートリアル**

基本的なアプリケーション操作を通じて対話形式でガイドします。[表示] メニューからチュートリアルのオン/オフを切り替えることができます。

- **マニュアルアシスタント**

Client Automation ユーザ インターフェースを開始したときに **Client Automation** 製品ドキュメントのリストを表示します。マニュアルアシスタントは、**Client Automation** ドキュメントに関する場所とアクセス情報を提供します。

- **CA マニュアル選択メニュー**

マニュアルの形式にかかわらず、ドキュメントセットに含まれるすべてのマニュアルに1か所からアクセスできます。これにより、ユーザは情報を簡単に見つけたり、あらゆるマニュアルを検索したり、ドキュメントを参照し、印刷したりできます。

マニュアル選択メニューには、**Windows** の [スタート] メニューで [プログラム]、[CA]、[IT Client Manager]、[Bookshelf] の順にクリックしてアクセスできます。